

# 日本救急医療財団の活動報告

橋本 昌男 事務局長

2023年12月中旬から2024年2月上旬までの財団の活動について報告します。

## 総務部門に関する報告

平田 真教 総務部

### 1. 第3回特区制度を活用した救急救命処置の先行的な実証に関する委員会開催について

12月21日(木)17時からTKP品川カンファレンスセンターにおいて、対面・WEBによるハイブリット方式により第3回特区制度を活用した救急救命処置の先行的な実証に関する委員会を開催しました。

第1部では、救急救命士のアナフィラキシーの判断精度や小児への適応拡大、投与方法等についてアドバイザーから貴重な意見をいただきました。

これらを受け第2部ではアドレナリン投与デバイスはエピペンの他、プレフィルドシリンジも検討すること、小児の摘要については学童まで含めるか検討するとともに、有害事象に対する連絡体制の整備の必要性等について検討しました。

### 2. 第4回特区制度を活用した救急救命処置の先行的な実証に関する委員会開催について

1月18日(木)17時からWeb会議方式により第4回特区制度を活用した救急救命処置の先行的な実証に関する委員会を開催しました。

第4回委員会では、実証事業は特区制度を活用し各自治体の業務として実施し、その業務で収集されたデータを分析する方向に絞り込むこととして、これに基づき事業のデザイン、倫理対応、MC協議会の参加要件、有害事象対応等を検討することとしました。

また、アドレナリン投与デバイスはエピペン、プレフィルドシリンジの両方を使用することとして、それぞれ安全性の担保、教育体制の整備、オンラインMC医との連携シミュレーションに関わる検討等を行いました。

## 研修研究部門に関する報告

風間 和則 研修研究部

### 1. 令和5年度救急医療業務実地修練等研修事業について

#### ○医療機関に所属する救急救命士業務実地修練(合同研修)

医療機関に所属する救急救命士業務実地修練につきましては、令和5年12月5日(火)から12月7日(木)まで合同研修(3日間)をオンライン(Zoom)により実施しました。

(施設研修については令和5年12月18日(月)から19日(火)2日間実施)

受講対象者は、救急救命士免許を取得している者であって、医療機関において、現に救急救命士として救急業務に従事している者又はしようとしている者であり、全国から受講定員（50名）を超える53名が参加されました。

合同研修プログラムでは、①救急救命士制度の現状と課題※直近の救急救命士法の改正の内容を含む（講義）、②医療機関に搬送されるまでの流れ1（消防機関の業務と役割）（講義）、③医療機関に搬送されるまでの流れ2（通信指令の業務と役割）（講義）、④医療機関に搬送されるまでの流れ3（現場での救急救命措置）（講義）、⑤救急外来、初療室における医療安全（講義、WS）、⑥救急外来、初療室における感染対策（新型コロナウイルス感染症対策を含む）（講義、WS）、⑦救急外来、初療室で実施する心肺蘇生（研鑽が必要な救急救命措置）（講義）、⑧転院搬送における調整と搬送（講義、WS）、⑨医療機関での救急救命士の業務（講義）、⑩救急医療機関における不応需減少への取組（講義、WS）、⑪局地災害時の対応（講義、WS）、⑫救急救命士のキャリアアップ（モデルケース）（講義）、⑬救急救命士のキャリアアップと生涯教育システム（講義、WS）、⑭救急救命士制度の将来像と課題（WS）を実施し、研修プログラムを通して救急医療の最新情報等を学ぶとともに、WSではZoomのブレイクアウト機能により各班に分かれたディスカッションを行い、受講者相互の活発な情報交換が行われました。

また、本研修においては医師救急医療業務実地修練受講者、看護師救急医療業務実地修練受講者との合同研修を実施し、⑮救急外来、初療室におけるチーム医療（講義、WS）、についてグループディスカッション（15班）を行うなど医師、看護師、救急救命士による活発な意見交換がなされ、大変有意義な合同研修となりました。

### ○医療機関に所属する救急救命士業務実地修練（施設研修）

医療機関に所属する救急救命士業務実地修練における施設研修を、令和5年12月18日（月）から19日（火）までの2日間実施しました。

施設研修については、実際に救急救命士が勤務する施設研修病院（（高度）救命救急センター）に受講者が赴き研修を受講することとしておりましたが、新型コロナウイルス感染症が5類感染症になったものの、今年度における感染者数の推移、医療提供体制を考慮し、今年度も受講者と施設研修病院間をオンライン（Zoom）で結んで開催しました。

施設研修プログラムでは、①医療機関に所属する救急救命士への教育に関する事、②医療機関に所属する救急救命士の業務と事後検証に関する事、③医療機関に所属する救急救命士のキャリアアップに関する事、④救急医療機関で行われている診療の現状、⑤救急医療機関で行われている感染症対策・安全対策の現状、⑥救急医療機関における災害対応に関する事、について各施設研修病院より研修を実施して頂きました。

実施にあたっては、施設研修病院（10病院）のご協力のもと受講者を4班に分け各班4病院（AM、PM各1病院×2日間）を受講して頂き、各班が全ての施設研修プログラムを受講できるよう各施設研修病院が研修プログラムから1項目から3項目選定し、各病院の特色を

活かしたレクチャー及びディスカッションを実施して頂きました。

受講者は、各施設研修病院のレクチャー及びディスカッションに意欲的に参加するとともに、各病院間の差異等について積極的に質問するなど大変有意義な施設研修となりました。

### ○看護師救急医療業務実地修練（合同研修）

看護師救急医療業務実地修練につきましては、令和5年12月4日（月）から12月8日（金）まで合同研修（5日間）をオンライン（Zoom）により実施しました。

（施設研修については令和6年1月15日（月）から17日（水）3日間実施）

受講対象者は、救命救急センター又はそれと同等の施設において、2年以上救急部門、集中治療（ICU）などで実務経験がある者等であり、全国から受講定員（70名）を超える78名が参加されました。

合同研修プログラムでは、①救急医療の現状（講義）、②小児医療（講義）、③災害医療概論（講義）、④災害医療の現状・災害トリアージ・DMAT（WS）、⑤災害看護学概論（講義）、⑥高齢者医療（講義）、⑦ACS（講義）、⑧臓器不全・血液浄化法（講義）、⑨グリーフケアとDMORT（講義）、⑩脳卒中（ISLS、PSLS）（講義）、⑪自施設の救急医療の課題検討 私の施設の救急で困っていること（WS）、⑫ドクターヘリにおけるフライトナース（講義）、⑬急性中毒（講義）、⑭呼吸不全（講義）、⑮精神病状を持つ患者へのアプローチ（講義）、⑯熱傷（講義）、⑰脳死と臓器移植（講義）、⑱循環不全（講義）、⑲ERの現状（講義）、⑳救急における安全管理（感染管理も含む）（講義）、㉑JNTECの実技（WS）、㉒意識障害（ACEC、PCEC）（講義・WS）、㉓院内急変対応（講義）、㉔救急患者への対応と緊急度判定（講義）、㉕救急（院内）トリアージの実際（WS）を実施し、研修プログラムを通して救急医療の最新情報等を学ぶとともに、WSではZoomのブレイクアウト機能を使用した各班に分かれたディスカッションでは受講者相互の活発な情報交換により、連帯感が深められました。

また、医師救急医療業務実地修練受講者、医療機関に所属する救急救命士業務実地修練受講者との合同研修を実施し、㉖救急外来、初療室におけるチーム医療（講義、WS）、についてグループディスカッション（15班）を行うなど医師、看護師、救急救命士による活発な意見交換がなされ、大変有意義な合同研修となりました。

### ○看護師救急医療業務実地修練（施設研修）

看護師救急医療業務実地修練における施設研修を、令和6年1月15日（月）から1月17日（水）までの3日間実施しました。

例年、施設研修については、受講者が施設研修病院（（高度）救命救急センター）に赴き研修を受講することとしておりますが、新型コロナウイルス感染症が5類感染症になったものの、今年度における感染者数の推移、医療提供体制を考慮し、今年度も受講者と施設研修病院間をオンライン（Zoom）で結んで開催しました。

施設研修プログラムでは、①救急部門の紹介（組織体制、人員構成、設備、病床数等）、②救急看護師の役割と実践（認定看護師・専門看護師・診療看護師・特定行為研修修了者等の救急領域スペシャリストの役割と実践も含む）、③救急看護師の育成、教育内容、④多職種協働、チーム医療の実際、⑤トリアージの実際、⑥ドクターヘリ・ドクターカーの紹介、について各施設研修病院より研修を実施して頂きました。

実施にあたっては、施設研修病院（19病院）のご協力のもと受講者を3班に分け各班6病院（AM、PM各1病院×3日間）を受講して頂き、各班が全ての施設研修プログラムを受講できるよう各施設研修病院が研修プログラムから1項目から3項目選定し、各病院の特色を活かしたレクチャー及びディスカッションを実施して頂きました。

受講者は、各施設研修病院のレクチャー及びディスカッションに意欲的に参加するとともに、各病院間の差異等について積極的に質問するなど大変有意義な施設研修となりました。

### ○医師救急医療業務実地修練（合同研修）

医師救急医療業務実地修練につきましては、令和5年12月6日（水）から12月8日（金）まで合同研修（3日間）をオンライン（Zoom）により実施しました。

（施設研修については令和6年1月18日（水）から1月19日（金）2日間実施予定）

受講対象者は、二次・三次救急医療施設等に勤務し、救急の第一線で活動している者（日本救急医学会救急科専門医またはそれと同等の知識、技術を有する者）であり、全国から33名の受講者が参加されました。

合同研修プログラムでは、①救急医療の法的問題（講義、WS）、②地域において救急医療施設が果たす役割（MCを含む）に関する事（講義、WS）、③災害・テロ対策に関する事（WS）、④小児救急医療（講義）、⑤救急医療と感染症情報（講義）、⑥救急医療における病院前医療体制（講義）、⑦救急部門の管理運営に関する事（WS）、を実施し、研修プログラムを通して救急医療の最新情報等を学ぶとともに、WSではZoomのブレイクアウト機能により各班に分かれたディスカッションを行い、受講者相互の活発な情報交換が行われました。

また、看護師救急医療業務実地修練受講者、医療機関に所属する救急救命士業務実地修練受講者との合同研修を実施し、⑧救急外来、初療室におけるチーム医療（講義、WS）、についてグループディスカッション（15班）を行うなど医師、看護師、救急救命士による活発な意見交換がなされ、大変有意義な合同研修となりました。

### ○医師救急医療業務実地修練（施設研修）

医師救急医療業務実地修練における施設研修を、令和6年1月18日（木）から1月19日（金）までの2日間実施しました。

例年、施設研修については、受講者が施設研修病院（（高度）救命救急センター）に赴き

研修を受講することとしておりますが、新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症になったものの、今年度における感染者数の推移、医療提供体制を考慮し、今年度も受講者と施設研修病院間をオンライン（Zoom）で結んで開催しました。

施設研修プログラムでは、①救急部門の運営・管理に関すること、②地域において、救急医療施設が果たすべき役割（ドクターカー・ドクターヘリ、メディカルコントロールなど）に関すること、③医師、看護師、救急救命士、その他救急部門スタッフへの指導・教育に関すること、④災害・テロ対策に関すること、⑤その他、最新の取り組みや救急医療の動向に関すること、について各施設研修病院より研修を実施して頂きました。

実施にあたっては、施設研修病院（17 病院）のご協力のもと受講者を 4 班に分け各班 4 病院（AM、PM 各 1 病院×2 日間）を受講して頂き、各班が全ての施設研修プログラムを受講できるよう各施設研修病院が研修プログラムから 1 項目から 3 項目選定し、各病院の特色を活かしたレクチャー及びディスカッションを実施して頂きました。

受講者は、各施設研修病院のレクチャー及びディスカッションに意欲的に参加するとともに、各病院間の差異等について積極的に質問するなど大変有意義な施設研修となりました。

## 2. 研修教育事業委員会について

令和 6 年 2 月 16 日（金）にビジョンセンター田町（オンライン（Zoom）参加可）にて、今年度第 2 回目の研修教育事業委員会（委員長：溝端康光先生）を開催いたしました。

令和 5 年度に実施した救急医療業務実地修練事業に係る各研修・講習会の実施報告等について、受講者のアンケート結果等を踏まえ各研修・講習会の評価等（オンラインによる研修実施のあり方等を含む）を、各委員（各研修プログラム責任者等）により活発な意見交換がなされ、研修スケジュール、研修内容等が予定どおり実施できたことを確認いたしました。

## 3. AED の内部データ利用・検証に関する作業部会（分析・検証）について

AED の内部データ利用・検証に関する作業部会において、令和 3 年度に取り纏められた報告書に基づき、実際の AED 使用事例の報告があった内部データの分析・検証体制の整備・実際の AED 内部データの分析・検証について、令和 4 年 10 月 17 日（第 1 回）から検討を行い、令和 5 年 12 月 19 日（火）に第 7 回同作業部会をビジョンセンター田町にて開催しました。

オートショック AED における実際の使用事例の内部データ（音声データを含む）延べ 9 例をメインに、他の事例を含め検証を実施しました。

会議では各委員から医学的な観点から意見交換がなされ、引き続き内部データの分析・検証について事例検討を行う事としています。

次回の作業部会につきましては 3 月に開催する予定です。